

令和 6 年度 園評価書

園番号 8 園名 田町こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心も体も 元気な子	気付き動き出す	色々なことに興味を持ち、「これがいい」「これがやりたい」と自ら選び遊びだしている	・遊びだしの環境 (用具・道具・廃材・自然物など) を整えたことで、自ら選べるいろいろなことに興味を持ち遊びだしている ・出してあるものはどれも使ってよいことを伝えてあるが「〇〇であそんでいい?」と尋ねる姿がある	B	A	・子どもたちの発想が形になるよう保育者がやれるように援助している。子どもの姿を伸ばしてくれている	・小さな「できた」と思える経験をたくさんする中で、失敗しても大丈夫と思える心を育み、「やってみよう?」から「やってみよう」と思えるようにしていく
		自分の考えを表現したり相手の考えを聞いたり共感したりしながら遊ぶ経験を積み重ねている	・クラスや小グループの話し合いの場で発表する機会を作ることが、自分の思いを伝えたり相手の思いを聞く経験となっている。 ・「それいいね」と相手の思いに共感できる子もいれば、理解に差が見られる	B	B	・重点目標の「気づき動き出す」は職員にも当てはまる目標であると感じた	・思いを実現できるよう「どうしたらできるのか?」考えることができるような言葉がけを意識してかかわっていく
		友だちや保育者と一緒に体を動かして遊んでいる	・学年ごとの発達や興味関心、経験させたいことを捉え、体験できる機会を設けることができた。その遊びをつなげるなどした、サーキット遊びや集団遊び・マラソンなど友だちと一緒に体を動かして遊んでいる	A	A		・年齢にあった運動経験を積み重ねることができるよう運動遊びごとの話し合いの場を持ち、遊び方を知り、保育につなげていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における 教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの発達や経験などを十分に把握し、一人一人に合わせた適切な援助を行っている	・一人一人の発達や特性・経験値を理解し職員間で共有。日誌記入やケース討議、公開保育の中で子どもの理解を深め、個々に合わせた援助を行っている ・職員会議を日中に変更し様々な職員が参加できるよう工夫した	A	A	・自然とのふれあいについて園の立地環境の中で工夫してくれている	・園児の情報共有や援助・保育について深めるための話し合いの時間作りをより工夫していく。そして、個々への対応の仕方や準備を行っていく ・日中の職員会議や支援児の会議など様々な職員が話し合いに参加できる形式を引き続き行っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	個々の生活リズムの違いを踏まえて、子どもたちが主体的な生活が送れるようにしている	・早番から遅番まで通して使用する連絡名簿を活用し、職員間で情報の共有を図り、個々の生活リズムや体調・年齢に合わせ活動時間の組み立てを行い、主体的な生活が送れるようにしている	A	A	・公開保育で職員が他クラスの保育を見るだけでなく、振り返りを行い、PDCAサイクルが成り立っている	・連絡名簿の項目を見直し、誰が見てもわかる連絡ツールとして活用していく ・教育時間を家庭にも伝えながら、子どもたちが気持ちよく活動に参加できるよう働きかける
	(3)環境を通して行う教育及び保育	自然と触れ合える場や遊びに取り入れることができる環境が用意されている	・季節の野菜栽培や子どもたちが自由に使うことができる草花の栽培 (オシロイバナ)。園内の木で見つけたアゲハチョウの飼育、どんぐりや落ち葉など自然に触れることができる環境を整えた ・地域の自然を活用できるようにしていきたい	B	A	・タブレットの導入を受け、小学校では1年生からタブレット学習を行っている。「積極的な活用」から「効果的な活用」へ考えが変わってきている。園での活用方法についても様々なことをタブレットだけにするのではなく、効果的な活用をしてほしい	・子どもたちが、自由に遊ぶことができる草花コーナーを増やしていく ・地域の自然物を共有する散歩マップの作成、活用していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な災害を想定した訓練やヒヤリハットを集める中で、全職員が状況に応じた行動がとれている	・減災教育移行。新しい避難方法を取り入れ避難訓練を行っている ・毎月ヒヤリハットの園内研修を行い、改善策や対応について考える機会を持ち状況に応じた行動につながるようにしている ・ヒヤリハットのボードを作成し、危険箇所の共有をしている	A	A	・今までの上に新しいことを入れていかななくてはならない時には、そのぶん何かを削ることもやってみてほしい	・引き続きヒヤリハットの園内マップを活用する ・散歩マップに避難ルートを追加記入、ブロック塀や電柱等避難時倒壊が考えられる場所を明記し周知する ・職員が減災教育の研修に参加する
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗いやうがいなど見取りを行い、繰り返し知らせていくことで、健康に過ごすための基本的な生活習慣が身につけている	・手洗いやうがい等繰り返し伝えることで、身につけてきている ・食育の日には食を通して健康に過ごす方法を伝えている ・食育の日には各クラスごと行うことが多く、伝え方を工夫したい ・食品サンプル展示場所変更、噛み噛みメニューなど発信している	B	B		・職員会議や木トークで感染症対応マニュアルの読み合わせや研修を計画的に行っていく ・食育の会 (集会) の機会を設け、劇等子どもの視覚的にもわかりやすい伝え方をしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	職員会議など共通理解できる場を設け、支援の必要な子の特性や関わり方を園全体で共有する	・支援担当職員以外の職員が公開保育、支援の会や振り返りの会に参加する機会を設け、多面的な視点で意見をかわし、共通理解やかかわり方を共有している ・外部講師を招き支援についての理解や意識の向上につながった	B	A	・近隣の学校との連携については、お互いが同じ意識をもって進めていきたい	・ケース討議、支援の会、公開保育を継続的にを行い、全職員で共通理解し、対応方法など学びを深めていく ・次年度も外部講師研修の機会を設ける
5 組織運営	(1)組織体制の充実	責任をもって分掌に取り組むと同時に、連携体制の見直しを行い、全員で進めていく	・一人一人責任をもって分掌に取り組んでいる ・連携体制の見直しを行ったが、思うように機能しない所も見られた。各分掌の枠を超えた連携が必要だと感じた	B	B	・地域の新年会ではおかめひょっとこが登場する、園にも来てもらおうとよいのではないかと	・半期ごと分掌の活動状況を振り返り、進捗状況を職員間で共有していく。行事などの準備も見直しをもち、様々な職員に分担していく
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修計画に基き、公開保育や園内研修を行っている。園外の研修に積極的に参加し保育に活用する	・公開保育、園内研修に全職員が計画的に参加できる体制を作ったことで学びを共有している ・園外の研修 (公開授業・近隣園公開保育・外部研修等) にできるだけの職員が参加できるようにし、保育に活用している	A	A		・クラスの遊びや育ち、園内外の研修での学びをより細かく共有できるよう、木トークの時間や掲示方法などを工夫 (遊びマップの活用・実技研修の実施)
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの「やりたい」を実現できるように子どもの考えや思いに合わせた環境作りをしている	・子どもたちの発達に合わせた、遊びの「楽しい」ポイントを捉え、次の展開に必要な環境の用意や再構成を行った ・クラスごとの拠点を充実させたことで居場所ができ、遊びが継続しやすくなっている	B	B		・教材研究の機会を計画的に企画し、職員のスキルアップを行っていく ・環境改善の年間計画、定期的な見直しを行うことで充実した環境作りにつなげる
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	登降園時に様子を伝えたり、園での取り組みをボードやドキュメンテーション、コドモンで保護者に発信し、子どもの育ちを共有している	・コドモンでのドキュメンテーションや乳児連絡帳への写真添付が始まり、子どもの育ちを発信、共有している ・登降園時に様子を伝えたり、参加会や面談を行い園での取り組みや成長を伝える機会を設けている	A	A		・身体重測定の結果を毎月配信する ・限られた文字数の中でより成長や取り組みに対してのねらい、思いを分かりやすく伝えることができるようにする
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育、公開授業や事後協議、末広学園に参加。情報の共有を行う。小学校との交流計画を作成し、交流の機会を持っている	・自園の公開保育に参加してもらったり、近隣小学校や近隣園の公開授業・公開保育、事後協議に参加。また、末広学園 (末広中学校区の小中こども園の集まり) に参加し、情報の共有を行った ・小学校授業見学を行ったが、小学生と交流機会をもてなかった	B	B		・近隣校との交流方法の検討 (園児と小学生との交流・職員間の交流) ・引き続き公開保育を行い、近隣小学校や私立園との交流機会を設けていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域と交流する機会をもち、地域の園として親しまれる園作りを行っている (おしゃべりサロン、世代交流会他)	・元気クラブ・スカイクロス・ウクレレバンド、花育教室、世代交流会と地域の方々との交流機会が増えたことで、新たな活動 (紙芝居の会) の申し出もあり、ふれあいの機会が広がっている ・おしゃべりサロンで地域の子育て世帯と園児の交流機会を設けた	A	A		・引き続き交流の機会を設け、計画的に実施していく ・おしゃべりサロンへの継続的な園児との交流計画を立て、ふれあいの機会を設けていく